2012年11月18日（日曜日）の下野新聞に被災地支援についての記事が紹介されました。

下野新聞 第3種郵便物認可

県北・日光版

287(40)1023 AX(40)1024 那須烏山支局 0287(80)1023 FAX(80)1024

那須塩原の秋元さんら

被災地支援で祈りの人形届く

陸前高田高齢女性「感謝の心伝えたい」

【那須塩原】東日本大震災の被災地を会社ぐるみで支援している東小屋のパン・アキモトに、岩手県陸前高田市の高齢女性から小さな祈りの人形がたくさん届いた。女性は親族6人を津波で奪われ、仮設住宅の部屋で朝から夜まで作り続けているという。「自分たちの感謝の気持ちを伝えたい」。そんな思いがこもった人形を「どう生かせばいいだろうか」と社長の秋元義彦さん（59）と妻の志津子さん（57）は思案している。（飯塚博）

祈りの人形を手にする秋元さん夫妻

仮設の部屋 手製の日々

人形の送り主は佐藤ヒデさん（83）。愛らしい表情の尼さんが数珠を手に笑顔で天を見上げて祈る姿をちりめんの生地とビーズなどで表現している。「福ちゃんの祈り」と名付けている。

秋元さん夫妻や同社の社員は、陸前高田市の仮設住宅をたびたび支援で訪れている。昨年10月、初めて佐藤さんと会い、この人形を2千個以上作り続けていることを知った。「生地が手に入らない」と聞いた志津子さんは帰った翌日に生地を買って送った。

人形は今月9日に26個届いた。添えられた手紙にはお礼と「あたたかい支援で勇気と元気をいただき、元気を取り戻した。今は毎日笑顔作りに精を出しています」とあった。

人形は、朝から夜まで作業しても1日10個ほどがやっとという丁寧な作り。津波被害に遭った同市内5カ所の寺に100個ずつ納めた後、ボランティアに来てくれた人たちに渡しているという。佐藤さんは「部屋にいても恩返しができると考えた」という。

秋元社長は「今もこうやって頑張っている人がいる。皆に忘れないでほしいと感じた」と話す。志津子さんは「何か佐藤さんの励みになる方法はないか」と思案している。

心つなごう 東日本大震災